交通政策審議会観光分科会　第33回　議事概要

1.　日程

平成29年４月21日（金）10時30分～12時30分

2.　場所

４階特別会議室（中央合同庁舎３号館）

3.　出席者

秋池委員、奥委員、木場委員、篠原委員、伊達委員、田中委員、野田委員、ﾏﾘ ｸﾘｽﾃｨｰﾇ委員、矢ヶ崎委員、恩藏委員

国土交通省：

観光庁、総合政策局、鉄道局、自動車局、海事局、港湾局、航空局

4.　議題

・平成29年版観光白書について

・その他

5.　議事概要

観光庁より議題について、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

- ✓ 双方向が大事。日本人のアウトバウンドのデータ（表）を入れること。
- ✓ テーマ章、地域（ポイント）だけではなくて広域観光（エリア）として取り組むことが大事。
- ✓ 「国内宿泊旅行延べ人数」「国内日帰り旅行延べ人数」ビジネス目的も入っているか。ビジネス需要も大きい。目的ごとに記載してはどうか。
- ✓ 旅行における列車利用の増加が若年層というのは意外。中高年ではないのか。
- ✓ 自家用車利用は少なくなってもレンタカーは使う（2次交通）。2次交通についての分析も必要。
- ✓ どんなデータを集めるかは改善し続けないといけない。海外の統計ではベッド数があり重要な指標となっている。
- ✓ 情報発信が不十分、ショッピングウイーク、美しい地域など外国人が情報発信をしている。
- ✓ 賑わいを維持するためには、計画が大事なのはわかるが、何年間の計画か、何

年後を目標にしているのか。

- ✓ ニーズの変化、オプショナルツアーが盛んではない。オプショナルツアーについての情報を共同して出している例を紹介。
- ✓ ＤＭＯについて、こういうことができるという取組事例を紹介。
- ✓ 滞在時間と消費の関係を分析（大阪は滞在時間 60 時間、奈良はもっと短い。）
- ✓ 海外では参拝の心得なんかを紹介している、日本でも同じ情報発信が必要。
- ✓ 宿泊が減っている要因を分析のこと。
- ✓ 観光競争力の１～3 位はどこか。
- ✓ 列車利用が増えている、2 次交通どうするか。2 次交通がないと観光客が来ないのか、分析が必要。
- ✓ 団体旅行が減少している事実だけでなく、新しい商品開発が必要なのか、全くニーズがなくなっているのか。イノベーションのきっけかにならないか。
- ✓ 第 3 部は事実を書くだけでなく効果やＫＰＩを書くこと。
- ✓ 白書を web で公表、詳細データはＨＰのリンクを張り付ける等ＨＰ公開の方法も改善。
- ✓ テーマ章、更に分析すべき。成果が上がっているのか、成果とは入込客ではなく、消費額、地域への経済効果。インバウンドを目指すのはなぜか、記述が必要。ＤＭＯを作るだけでなくどんな運営をすると成功するか。
- ✓ 団体旅行の減少を対立構図で捉えない。
- ✓ テーマ章、地域の取り組みにステップがあるはず、ＤＭＯ設立はステップ１。
- ✓ 示唆を実現するとどうなるか、効果の部分を示すとより説得的。
- ✓ 伊勢の例、おかげ横丁のみに依存していない広がりのある取組。活プロの取り組み、伊勢と出羽三山。
- ✓ 雇用についての情報・取り組みがない。ニセコ、スキーインストラクターを外国人がやるか日本人がやるか。地域にお金が落ちる。
- ✓ 復興割の評価。
- ✓ インバウンド、移動が長いとよりお金を使う。指標があるとよい。
- ✓ 若者向けプロモーションで若者増えたのか、因果関係示すこと。若者もともと多かったのではないか、変化を示すこと。
- ✓ テーマ章、これまで有名でなかったところを紹介してほしい。
- ✓ 外国人に対する態度、順位低い、評価の基準何か。
- ✓ 本年度の施策について紹介願いたい。
- ✓ 地域の取り組みが収益につながっているのか、行政の負担が増えては持続しない。
- ✓ 温泉、自然、歴史・文化を選んだ理由、事例としてあげられている地域を選んだ理由。

- ✓ データは誤解を与えないように修正。
- ✓ ハラル対策が必要
- ✓ インド人対策も必要
- ✓ 賑わいの持続には平準化も必要、ニーズ、休暇。
- ✓ テーマ章、縁の下の力持ちの紹介してほしい、立山に軽装で来る外国人。
- ✓ 日本のお土産がmade in China、日本のデザイン、アレンジ製品であることを示す取り組み必要。